

集会案内

日曜日

礼拝：2:00pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinenihongokyokai.org

榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村宰牧師

電話 (714)527-1456

Eメール:sugimura1950@gmail.com

◎石叫■

「コーリー・テン・ブーム」②

ある時、部屋で殴り合い罵り合う声が聞こえた。狭い寝棚を二人で使用していたが、一人がもうひとり寝棚の外へ押し出してしまったために喧嘩になったのだ。ベッツイーが、「コーリー、祈らなくては危険よ!」と言った。もし看守がそれを聞きつけたら、全員が残酷な罰をうけることになるからだ。そこで二人は一心に祈った。するとまるで嵐が静まるように静まった。神の助けだった。

ラヴェンスブルックで神の言葉を語るには大きな危険が伴った。もし聖書を教えていることが知られて捕まったら、残虐な方法で殺されるであろう。けれども看守はコーリーが第28号棟で一日二回の聖書研究をしていることを知る由もなかった。少し詰め状態の部屋は汚く、ノミやシラミが這いまわっている状態だったので、看守は決して中に入ろうとしなかったのである。主はコーリーの聖書研究の時間を、天使とシラミを用いて守って下さったのである。

やがて過酷な冬が過ぎた頃、コーリーたちと同年代の囚人がすべて殺されることになった。戦争が終わる前までに、九万六千人もの女性がそこで亡くなったといわれるが、その殺戮の一週間前にコーリーは釈放された。後にこの釈放は単なる事務手続きの誤りによるものであることが分かった。番号記録簿の中で、彼女の番号が死の欄から釈放の欄に移されていたのである。確かにそれは人間の誤りだった。けれども、それは彼女の残りの人生を用いて、神について学んだことや体験したことを分かち合いたくないと命じる神の方法でもあった。(コーリー・テン・ブーム『何という愛』いのちのことば社、二〇〇四)

ある時、コーリーは収容所での過酷な生活で絶望感に襲われ、このように祈った。「主よ、あなたは私たちのことはお忘れになったのでしょうか。姉のベッツイーは言った。「いいえ、神様は私たちのことをお忘れになったりはしないわ。聖書にこう書いてあるから。『わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる』(マタイ二八・20) だって。コーリー、イエス様は私たちと共にここにいらっしゃるのよ。私たちはこのことを信じなくてはいけないの。どう感じるかが大事なのではなく、信じるのが大切なのよ!。そうなのだ。神の言葉を信じる信仰こそが、現実という困難を乗り越えうる力である。

Rev. Tsukasa Sugimura

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。現在は、榊原宣行牧師の監督のもと、杉村宰牧師と啓子師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と、信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの折り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。